



# ぎおんばら

平成30年9月3日発行 発行者：谷田部 二三子

- 目指す学校像
- 明るく活力のある学校
  - 学び合う楽しい学校
  - 一人一人が目標に向かって精一杯頑張る学校
  - 保護者・地域と連携し、信頼される学校

## 学校に元気な声とたくさんの笑顔が戻ってきました！！

9月3日、44日間の長～い夏休みが明けました。目をキラキラさせて夏休み中のできごとを友達や先生に伝える姿や、全校集会で話し手にしっかりと目を向けて聴く姿などから、充実した夏休みであったこと、そして、これからの学校生活への意気込みなどが伝わってきました。



### ひと 他人のよいところを見つけよう～「イトコメガネ」

2013年、ACジャパンによる全国キャンペーン「イトコメガネ」がテレビ放送されました。手をメガネの形にして目元に当てた男の子が、次々と友達の「イトコロ」を発見していくといった内容です。

人は、往々にして人の悪いところに目が行きやすいものですが、意識すれば良いところをたくさん見つけることができます。そして、良いところが見つかれば、相手を認める言葉が増え、好きな人が増え、毎日をもっと楽しくなるはずですよ。

「誰もが楽しく過ごせる居心地のよい学級・学校」をつくり、自ら育ち、互いに育ち合うことができるよう、子どもたちには、人のよいところを見つけられ、人のよいところから学べる人になってほしいと思い、7月20日の夏休み前全校集会で話をしました。その後、教室を回ったところ、イトコメガネを作りながら笑顔を向けてくる子、「先生、〇〇ちゃんのよいところ教えようか」と声をかけてくる子など、たくさんの反応がありました。子どもって、素直でいいですね。

実は、おとなより子どもの方が、人のよいところを見つけるのが上手です。もしかしたら、意識しないで生活していると、おとなになるにつれてイトコメガネが曇ってきってしまうのかもしれない。そうならないために、私たちおとなも「人のよいところに目を向ける」「見つけたら、それを言葉に出して伝える」ということを意識して生活していきたいものです。

.....お子さんのよいところ、いくつ言えますか？

## 私が見つけた「祇園小のここがステキ！！」⑥

祇園小のスーパーヒーロー お助け戦隊「ギオンジャー」

祇園小学校には、保護者のOBで組織された学校支援ボランティア「ギオンジャー」があります。前任校では、熱心に活動し学校とよい関係を築いていたボランティアさんも、残念なことに、お子さんの卒業とともに学校から足が遠のいてしまっていたので、こうしてずっとかかわってくださる方々がいることに感激しました。「現在の保護者ボランティアだけでは手が足りない時や、隙間を埋めるようなお手伝いをしたい」と、実に謙虚な姿勢で、しかし前向きにかかわってくださっているのもありがたいです。

今年度は、まず、7月に、5年生の保護者ボランティアと一緒に、5年生の家庭科でお手伝いいただきました。子どもたちは初めての裁縫でしたが、優しく丁寧に教えていただき、「できた！」と、とても嬉しそうでした。夏休みには、白衣の修繕をしていただきました。家に持ち帰ってシミ抜きまでしていただきました。9月には、夏休みの作品の取りまとめと発送をしていただく予定です。

久しぶりに「ギオンジャー」に参加した方もいらっしやり、同窓会のようにおしゃべりに花が咲いていました。子育ての悩みも、先輩のお母さんに聞いていただけるよい機会になっているようです。



## 中学生と一緒に考えたよ「未来プロジェクト会議」

7月25日、南河内第二中学校において「下野市子ども未来プロジェクト児童・生徒交流会」が開催され、祇園小の代表として、6年生5名が参加しました。『清掃活動』をテーマに、現在の活動の様子や課題、今後の取り組み等について、二中生や緑小の6年生と



話し合いました。初めは緊張している様子でしたが、ゲームや話し合いを通して徐々に緊張もほぐれ、他校の子どもたちと積極的に意見を交換したり、全体の前で発表したりしていました。とても頼もしく思えました。



様々な意見が出されましたが、まずは、清掃班ごとに、その週の目標を子どもたちが決め、清掃の後に振り返る取組をすることになりました。子どもたちの主体性を高める取組になると、期待しているところです。（文責：児童会担当）

## 先生達も学んだ、暑い夏休み

夏期休業中、学校教職員は、校内外における様々な研修会を通して、指導力の向上を図りました。

校内においては、Q-U（学級集団アセスメント）の結果をもとに学級経営について考えた「いじめ・不登校研修」、大学の先生等による「理科実技研修」、「道徳研修」、情報教育アドバイザーによる「タブレット活用研修」とタブレットを活用した「マット・跳び箱指導の工夫」、本校教員が講師となった講話と演習「ソーシャルスキルトレーニング」、「ノロウィルス感染予防」、教育課程研究集会に参加した教員による新学習指導要領のポイントについての出張報告などを行いました。



また、小中一貫教育では、南河内第二中学校区の全教員が集まって、ランドデザインをもとに全体像を確認した後、部会ごとに今後の取り組みについて話し合いました。

さらに、下野市教職員全体研修会では、和歌山大学教育学部心理学教室の米澤好史教授による講話「愛着障害の理解と支援」を聴きました。私は、さらに詳しく知りたいと思い、本を購入して読んでみました。

愛着障害は、多動をはじめ発達障害と同じような行動が見られるため、見極めることが困難ですが、発達障害の子どもが約6%と言われるのに対して、愛着障害は約30%もみられるそうです。これは、親子の愛情が不足しているからではなく、その子の特性や特徴と親の育て方が合わないといった、いわゆる相性の問題が原因なのだそうです。また、現代は、子どもが泣いたりむずかかったりしたときに落ち着かせてくれるもの（ビデオ、スマホ、ゲームなど）がたくさんあるので（子どもが親の愛情を感じ取る機会が少なくなり）、それが愛着形成を妨げる要因ともなっているそうです。

「愛着」とは、「特定の人と結ぶ情緒的な心の絆」であり、愛着形成には3つの機能があります。

- (1) **安全基地機能**：恐怖や不安（ネガティブな感情）から守ってくれる。  
＝子どもは「守られている」と気づき、子どもの愛着対象である親やおとなは「子どもを守っている」と気づく認知の機能
- (2) **安心基地機能**：そこにいると落ち着く、ほっとする、癒やされる。  
＝ポジティブな感情を生むつながり感
- (3) **探索基地機能**：そこから離れても大丈夫（分離）で、そこに戻る（帰還）ことができる。  
親やおとなから離れている場所でやったことを報告すると、認めもらえる。  
（報告＝その時の気持ちを共有する。報告することで、ポジティブな感情は増え、ネガティブな感情はなくなる）⇨母子分離不安、「お母さんに言わないで」

愛着障害の子どもは、「感情発達の未熟さ」があるので、人の感情を理解することが苦手です。なので、人間関係のトラブルも多く起こしてしまいがちです。しかし、上記の3つの機能を意識した適切な支援・指導をすることによって、愛着を形成・修復することができます。

個々の子どもの様子を見極め、より適切な支援・指導をしていく必要性を改めて感じました。お子様のことで、気になること等ありましたら、学校にご相談ください。一緒に考えていきましょう。